診療室

最良の診療を提供するジェネラリストを目指して

前田浩人[†]（前田獣医科医院院長・北海道獣医師会会員）

私は北海道の地方都市で動物病院を開業している．私の住む地域は国内生産頭数の多くを占める軽種馬産地に近い地域でもあることから馬を専門とする獣医師，牛や豚等の産業動物を専門とする獣医師，食肉検査や防疫を専門とする獣医師，野生動物を専門とする獣医師，そして我々のような小動物を専門とする獣医師により獣医師会が構成されている．

思い起こせば私が大学生であった頃，将来の進路に思い悩み各専門の先生のもとで実習させていただいた結果，小動物臨床獣医師になる決意をしたことを思い出した．当時我々の学年は6年制の2期目ということもあり，多くの同級生が海外留学しスペシャリスト（専門医）になることに憧れを持っていた．一般的にスペシャリストとは，ジェネラリスト（総合医）の対義語で，業務上，他者との明確な差別化の要素となるような特定の分野に関する深い知識や専門的な技術を持ち，その分野に特化して仕事をする人のことと定義されている．私自身臨床系の研究室に所属していたこともあり，開業後も大学の研究室で猫の腎臓移植に関する研究を手伝わせていただき現在も基礎系の研究室で猫の腎臓病に関する勉強をさせていただいている．しかし，私のような町の動物病院の診療獣医師は，広い視野にたって的確な診療ができるジェネラリストでなくてはならないことに気が付いた．

以前父が体調をくずし，総合病院の循環器内科で7～8年間毎月診察していただいていたが咳がぜんぜんおさまらないため同じ病院の呼吸器科に受診をしたところ，担当の医師にどうしてこんなになるまで放置しておいたのだと怒られたことがある．最初はなにを言われているのか理解できなかった．というのも毎月病院での診察を受けており，放置していたわけではないのである．医師の机の上には父の数年間の分厚いカルテがおいてあった．結局，人の医療現場は専門医により細分化され，専門以外は手を付けない，つまり1本1本の木を診る先生はいても森全体を診て的確に判断できるジェネラリストがいないことが問題だと痛感した．

一般的にジェネラリストとは，特定の分野ではなく複数の分野においてある一定以上の知識や技術を持って仕事をしていく人のことを指し，決まった専門分野に特化して仕事をする訳ではないと定義されている．ジェネラリスト診療とは，1人の獣医師として出来うる限りの問診，身体観察各種検査を実行，さらに自分の責任で診断しその診断に対し自分で出来る限りの治療を行って，自分の責任で適切に患者をマネージメントする診療を行うことである．また，1つの専門科だけの診療ではなく，患者の主訴という問題を解決できるように全科の知識をふまえて行う診療のことであり，これが可能となればジェネラリストによるマネージメントとスペシャリストによるマネージメントはほとんど変わらなくなると言われている．

しかし一方で，自分の診療に全く責任をとらず専門医へのコンサルテーションや転送を繰り返す無責任診療を行う医師もいるとも言われている．近年は，人の医療においても正しい交通整理が出来るジェネラリストの必要性が高まってきているようである．私も臨床現場においてジェネラリストを目指しているものの，奥の深さを痛感し，反省の毎日を過ごしているのが現状である．私の理想はどのような症例が来院しても的確な診療が出来ること，自分の能力の限界を客観的に理解し，ここまでが自分の仕事，ここから先は大学病院の先生にお願いするという判断が常に的確に出来るような獣医師を目指そうと考えている．もちろん地方の動物病院の症例を引き受けてくれる大学病院がますますレベルアップしていってくれることを期待している．

一方，私のような診療獣医師も論理という思考方法による正確で適切な診療を行う努力に加え，自分自身の経験を超えて診療を向上させるためのEvidence-based

前田浩人

—略　歴—

1985年　麻布大学卒業
1988年　北海道苫小牧市にて，前田獣医科医院開業
2000年　麻布大学にて博士号（獣医学）取得

† 連絡責任者：前田浩人（前田獣医科医院）
〒053-0851　苫小牧市山手町1-4-8　☎0144-74-4338　FAX 0144-74-7295
E-mail : hiroto.maeda@nifty.ne.jp

Medicineを取り入れ，診療の質の向上に日々努めなくてはならないと考えている．つまり，全てを大学病院や専門医の先生にお願いするのではなく，常に自分の診療レベルを高める努力をしつつも，自分の能力を超える仕事はお願いすることが大事ではないかと思う．最近は大学病院も手いっぱいの状態のようで，診療予約を取ることが出来ず，特に緊急性のある症例の場合は苦悩している．そのような状況であるからこそ臨床現場では，最良の診療が出来るジェネラリストの存在が重要ではないかと考える．私は，頼りになるジェネラリストであるとともに何かひとつ得意分野をもっている獣医師，心のこもった人間的診療ができる獣医師，地域に貢献できる獣医師になることを理想と考えるが，現実にはジェネラリストになることが一番難しいことなのかもしれない．

日々忙しさにかまけ，ともすれば惰性で診療にあたって来たきらいのある私ではあるが今年は丑年，牛にあやかって，これまでの歩みをじっくり「反すう」し，例え牛歩でも良いから目指すジェネラリストへの道を一歩一歩着実に求め続けて行きたい．